辞書引き学習の進め方（２年「国語辞典」）

１　ねらい

o　国語辞典を最大限に活用して、子ども達が自ら調べ・自ら学ぶ習慣と能力を身に付けさせる。

o　多くの言葉に慣れ親しむと共に、言葉の使い手としての能力を養い高める。

２　学習の進め方

（１）準備するもの

①　自分の辞書

＊　国語辞典を身近な所に置く。

o　ケースから出し、調べたくなった時にすぐ調べられるように、手が届く範囲に置いておく。

②　付箋

（２）指導の手順

＜第１段階＞　辞書に親しみ、辞書引き学習の進め方を理解する。

①　辞書の適当なページを開き、自分の知っている言葉を見つけ、付箋を貼る。

ア　付箋を縦長にして、あらかじめ鉛筆で番号を書いておく。

イ　辞書のページをめくりながら、知っている言葉を探す。

ウ　見つけた言葉の解説を読む。

エ　付箋の番号の下に言葉を書き込む。

オ　番号と言葉を書いた付箋を、その言葉の出ているページの上部に貼る。
（文字を隠さないように注意する。）

②　辞書を楽しく早引きする。

o　テーマを決めて５～６個の言葉を書き出し、全部引き終わるまでの時間を計る。

＊　好きな食べ物、好きな動物、好きな花、好きな魚、……

ア　付箋に鉛筆で番号を書いておく。

イ　番号の下に、見つけた物の名前を５～６個書く。

ウ　辞書を引いて言葉を探す。

エ　見つけた言葉の解説を読む。

オ　番号と言葉を書いた付箋を貼る。

③　調べた言葉の解説から、新たな言葉を見つけ出し、さらに辞書で引く。

ア　どこでもいいので辞書の適当なページを開き、自分の知っている言葉を見つけて解説を読む。

イ　言葉の解説を読んで、その中から様々な言葉を見つけ出し、その言葉をさらに引いてみる。

※　番号と言葉を書いた付箋を、忘れずに辞書に貼る。

＜第２段階＞　辞書を楽しく引きながら、辞書のルール（言葉の並び方が、五十音順であること）を学び理解する。

①　「あ」～「ん」で始まる言葉を示し、５分間で引く。

ア　「あ」「か」「さ」～「ん」を板書して、それぞれの文字が最初につく言葉を探す。

イ　時間を５分与え、なるべく多く引くように指示する。

ウ　国語辞典の言葉の並び方を知り、残りの言葉を引く。

※　児童の取り組みを評価し褒める。引いた言葉に必ず付箋を貼らせるようにする。

②　２つの言葉を示し、どちらが先に出てくるか、辞書で引いて確かめる。

ア　「うさぎ」と「かめ」、「いぬ」と「いたち」、「くるみ」と「くるま」

イ　「てんき」と「でんき」、「ごはん」と「こばん」、「ペンチ」と「ベンチ」

ウ　「ひょう」と「びょう」、「じゆう」と「じゅう」、「いつか」と「いっか」

エ　「かーど」と「かい」、「しーる」と「しお」、「けーき」と「けいと」

※　１度に示すのは、３組程度の言葉にする。付箋と取り組みへの賞賛を忘れずに。

＜第３段階＞　辞書を楽しく使いながら、辞書の持つ機能を学ぶ。

①　辞書の説明から、言葉を推測する。

T　辞書の説明を示したり、読んで聞かせたりする。（「ぼうし」「つなひき」……）

C　言葉を思い浮かべ、辞書で引いて確かめる。

②　条件に当てはまる言葉を辞書で探す。（辞典を引きながらしりとりをする。）

ア　最初の言葉とそれに続く言葉の文字数（４つ分）を指定。

「くしゃみ」→み□□□→□□□□→□□□→□□□□□

※　□にはひらがなやカタカナを１字入れる。小さい「ゃ」「ゅ」「ょ」や伸ばす音「ー」も１文字として数える。

イ　アに続けてしりとりをして、最初の言葉に戻る。

③　同音異義語を辞書で引く。

o　同音異義語を示し、正しい意味の漢字を辞典で引いて調べる。

＊　「花と鼻」、「火事と家事」、「熱い、暑い、厚い」、……

④　反対語を辞書で調べる。

ア　「あかるい」「うれしい」「おおい」等の反対の意味を表す言葉を考える。

イ　それぞれの言葉を辞典で引き、対マークの所に反対の意味を表す言葉が載っていることを教える。

ウ　イで調べた言葉を辞典で引き、対マークの所に元の言葉が載っているか確かめる。

エ　辞書を使えば、言葉の意味だけでなく、対義語や類義語（類マーク）も調べることが出来ることを教える。

（３）留意事項

① **辞書に付箋を必ず貼らせる。**

どれだけの言葉を、辞書で引いて調べたかがはっきり自分の目で確認できるよう、辞書で引いた言葉には忘れずに付箋を貼らせていく。

② **積極的に褒める。**

付箋がどんどん貼られていくと、自分の取り組んできたことが目に見える成果として実感でき自信となる。付箋が増えてきたら、自分の取り組みが正しく評価されていることを実感させ、さらに努力していくように積極的に褒める。

③ **時間を継続して取る。**

始めは、国語の時間を使って指導。１時間の内の５～１０分ぐらいの時間を使って継続的に行っていく。だんだん慣れてきたら、「短学活」や「朝学習」の時間に取り組ませたり、授業が早く終わった時の残りの時間を使ったりしていく。

④ **自主学習として発展させていく。**

更に使い慣れてきたら、国語の時間に限らずに、他の教科でもどんどん使っていくようにしていく。